

第54号

発行：令和4年4月

会員数：175名（3月末現在）

（家族会員=17名、個人会員=158名）

発行責任者：飯田 秀

編集責任者：出口 孝次

松浦武四郎記念館友の会

友の会だより

友の会事務局：

松阪市小野江町383

松浦武四郎記念館内



「友の会」のHPは、松阪市HPの中にあります。

<http://www.city.matsusaka.mie.jp/site/takesiro/tomonokai.html>

（松阪市で検索してね）

「会長として友の会と歩んだ道」

会長 飯田 秀



松浦武四郎記念館を支える唯一の団体として、平成20年に設立してから初代会長を仰せつかり、早14年が経ちました。また、昨年傘寿を迎える事ができました。

発足当時、武四郎が愛した「エゾヤマザクラ」30本を北海道千本桜運動から、3年間掛けて送って頂き、山へ仮植樹をしてから、武四郎記念館北側周辺に植樹をしたところ、次の年には、2本の木が開花しました。その時の嬉しさは計り知れませんでした。現在は、11本が育ち毎年4月には花が咲き、市内外から多くの方々が見学にいられています。

友の会は、育成管理及び環境美化に努め、松阪市善行者表彰を受賞することが出来ました。

武四郎ゆかりの大台ヶ原へ、平成20年に「友の会」として初の館外研修としてハイキングを実施し、武四郎が神鏡を奉納した西日本の天満宮へ研修バスツアーを毎年実施しています。遠方では、兵庫県の曾根天満宮をはじめ現在までに12カ所の天満宮へ神鏡の拝観と参拝していますが、過去2年間はコロナ禍の為に延期となっているのが現状です。



友の会主催による武四郎講座・他団体との交流会についても毎年実施しており、武四郎とご縁のある佐佐木信綱顕彰会との交流会では、司会を務めさせて頂き、武四郎と信綱の関わりについて佐佐木信綱記念館の学芸員のお話は武四郎を知る上で勉強になりました。

友の会誌の発行についても、当初は、3ヶ月に1回の発行を、現在は、4ヶ月に1回とし、中身の濃い友の会誌に役員が一丸となって努めています。

友の会設立10周年記念事業では、東京へ武四郎の墓参をかねて足跡を訪ねる旅として、1泊2日の研修ツアーを初めて実施し、本物の首飾りなどを見てきました。

松阪偉人顕彰団体協議会の発足から、友の会も武四郎の顕彰とPRに取り組み、毎年7月に、「松阪の偉人たち展」に参加し、役員が中心になり準備・展示説明などに務めて盛り上げています。

第20回の節目である「武四郎まつり」では、実行委員長を務める事になり、松阪駅前の棟は松阪市の設置したもので当時の観光課部長に話をしたところ、JRの土地であることを知らされ、直接駅長さんをお願いをして了解を頂くことが出来、幟旗2本を設置したことで、宣伝効果に繋がりました。

令和2年度は、「松浦武四郎記念館友の会の歩み」を2ヶ月掛けて作成し、県立図書館に展示され県民の方々にもPRが出来ました。

近年は、コロナ禍の為に計画通り進まず、中止や延期になりましたが、令和4年度はコロナも終息して、行事が組めることを願っておる次第です。

「松浦武四郎の読書と川喜田家の蔵書」講演

石水博物館学芸員 桐田貴史

令和3年11月14日(日)の武四郎講座において、石水博物館の桐田学芸員が講演されました。松浦武四郎の出版事業と読書、武四郎と川喜田石水との関係、武四郎にとっての南朝、石水の父遠里が集めた南朝関連蔵書、川喜田家も武四郎も北畠・南朝の流れ、武四郎と水戸藩、水戸もの書籍と川喜田家蔵書など、学術的にも貴重な研究についての詳しくお話しいただいた。参加者の皆様は、熱心に講演に耳を傾け、江戸時代から現代につながっている千歳文庫の持つ意義についても知り、深く頷いておられました。参加者の方に講演を聞いての投稿をいただきましたので紹介します。

「松浦武四郎講座を受講して」

駒田 健吾

武四郎の出版事業と読書を知っておく中で、武四郎は若くして松阪を離れ、諸国を巡りつつも、生涯に200冊の書物をまとめ、100冊以上を刊行した。本のまとめや刊行に至っては、当時書物からの知識収集が必要であったが、それを支えたのが伊勢商人で蔵書家だった川喜田石水(14代久太夫政明)である。武四郎は、13歳ころから津藩の儒学者平松楽斎の塾において、住み込んで学んでいたとき石水と出会い、互いに和歌に興味があり親交が深まり川喜田家に泊まったこともある。武四郎が石水に出した手紙は生涯にわたり90通ほどで石水博物館に所蔵されている。

川喜田家は、伊勢国津の納所が発祥地で伊勢国司北畠氏の家臣で、寛永3年(1626年)江戸日本橋大伝馬町に木綿仲買店を構える。現在、江戸時代から川喜田家が蓄積してきた本は、2万冊千歳文庫に保管されている。当時本を持っているのは富の象徴であり知恵・知識の集積でもある。図書館が全く無い時代に数万冊の一級品の本がそろっていた所は無い。

川喜田家の蔵書は、遠里(とおさと：13代)さんの時代に形成された。石水と武四郎は親密な交流をしていく中、武四郎は、ネットワークを作る上で人脈の広い伊勢の文化人足代弘訓の力を借りている。足代弘訓は、川喜田家に対して「これだけたくさんの書物を持っているならば、好学の人に書物を貸し、学者を育てるのが役割ではないのか」と。これを実践したのが川喜田家である。川喜田家の本仲間である小津家(小津久足)とも交流があり、武四郎は石水に津の書肆(しょし)を紹介するよう依頼している。代わりに武四郎は江戸馬喰町書肆を紹介している。

川喜田家は、たくさんの本を集積したいわゆる大学の図書館のような所である。川喜田家は遠里さんの時代に南朝関係の資料を大量に集め、南朝関係の本を出していた平松楽斎の塾にいた武四郎に影響を与えないはずがない。南朝への関心、資料への関心は何処からきたのか考える上で外せないのが水戸学である。水戸学の基礎を作ったのが徳川光圀で、光圀は佐々宗淳(ささむねきよ：介さん：介三郎、実在の人物)らに大日本史編纂のため全国各地の文書を見て回らせ、介さんは水戸に持ち帰っている。水戸黄門の伝説もあながちうそではない。

慶応2年(1866年)武四郎は、石水から提供を受けた鈴鹿・桑名地域の漢詩文集などを見て、蝦夷地をこんな土地にしたいと想像するなど創作意欲の原動力となったことを手紙に書いている。平松楽斎に宛てた手紙で南朝への思いをつづった武四郎は、江戸幕府の支配体制を相対化する思想が存在し、南北朝時代の幕府と朝廷の緊張関係のある政治体制と幕末に高まる尊皇思想が酷似したものだと捉えた。これは、幕末の知識人たちにとって極めて現実的な問題だった。

今回の講演で桐田学芸員の冒頭の挨拶で松浦武四郎の読書「いったいなんやねん」という感じで始まり、武四郎といえば旅をする人、北海道を探検した人として知られているが、川喜田家に宛てられた手紙を読み解いていくとそれ以上の熱量で本の話が出てくる。もう少し深めたら面白いのではないかと、というテーマでお話し頂きました。「武四郎と本」「川喜田家の蔵書」「南朝北畠」「水戸学」と私にとって新しい感動がありました。これまで以上に興味関心が高まり、もっともっと知りたいという気持ちになりました。機会があればもう一度聞かせてください。有意義な時間を過ごすことができ有り難う御座いました。心より感謝申し上げます。



講演する桐田学芸員



熱心に聞き入る参加者の皆様



拓本の説明をする四五百の森拓本会代表の西村欣也さん



初めての体験をして緊張する参加者の皆さん



まずは紙を張り付けていくのが難しい

第二回拓本体験会

令和4年1月29日（土）の午後、小野江公民館において、第二回拓本体験会が実施されました。

松阪市で活躍されている拓本家西村欣也さんを講師にお迎えして、昨年に引き続いて今年も拓本体験会を行うことができました。四五百（よいほ）の森拓本会のメンバーも応援にかけつけてくださり、実際に体験するときにはやさしく教えていただきました。その中には、去年は体験をする側だった会員の松村さんもいて、今年、初めての方の気持ちになってアドバイスされていました。

できあがった拓本は、3月1日から1ヶ月間、松浦武四郎誕生地において展示会をしました。

第二回拓本体験作品展



行灯の薄明かりの中に浮かび上がる拓本作品。力作揃いで、二回目の方がおられるとはいえ、素晴らしい出来映えにうっとりします。第三回があればぜひ参加したいなあとの声が聞こえてきそうです。

【記念館からのお知らせ】

☆記念館講座のご案内

4月はリニューアルオープン前につき開催しません

5月 8日(日)10:00～ テーマ:「旅の達人 松浦武四郎」 講師:記念館職員

6月12日(日)10:00～ テーマ:「交流の達人 松浦武四郎」 講師:記念館職員

7月10日(日)10:00～ テーマ:「描く達人 松浦武四郎」 講師:記念館職員

8月14日(日)10:00～ テーマ:「伝える達人 松浦武四郎」 講師:記念館職員



☆企画展示のご案内

4月24日(日)～6月12日(日)「武四郎のすべて」

さまざまな顔を持つ武四郎の姿を、重要文化財に指定された資料から紹介します。

※6月13日(月)～6月16日(木)は展示替えのため休館します

6月17日(金)～7月31日(日)「武四郎と幕末・維新」

激動の幕末期を志士として活躍した武四郎の姿を紹介します。 ※8月からの展示は未定です。

松浦武四郎記念館からのお願い

日頃は、記念館の応援と、武四郎翁の顕彰にご協力をいただき、誠にありがとうございます。

4月24日のリニューアルオープンから、入館料を改定し、講座参加者に団体入館料(講座+展示見学)あるいは資料代(講座のみ110円)をお願いすることになりましたが、友の会のみなさまには、記念館の広報、情報発信、記念館・誕生地でのボランティアガイドにご協力いただくことを理由に、講座ごとに友の会から入館料の減免申請を提出していただき、無料でご参加いただけます。

※お知らせ

4月1日より、館長が多賀幸子から山本命に交代しました。今後ともよろしくお願ひ申し上げます。

記念館館長

【友の会よりのお知らせ】

10月予定だったの伊勢方面バスツアーの中止について

何とか実施できないものかと考えてはきましたが、昨年度末までコロナ禍が続きあきらめざるをえませんでした。会員の皆様にはご迷惑をおかけしました。今年度こそ、実施できることを祈るばかりです。

2022年5月8日(日)に「総会」を行います。

コロナ禍の中ですので、昨年同様、報告会になる可能性もありますが、どうかご出席頂きますようお願い申し上げます。

会費の納入のお願い

令和4年度の年会費を、8月迄に納めていただきますようお願いいたします。もし連絡が無かった場合は、除籍にさせていただきます。

今後、口座振込みをご希望の方は、役員または記念館事務局 0598-56-6847 へお問い合わせください。



次回の発行は、8月の予定です。

